

会議の名称	議員定数・報酬等 検討特別委員会	開催月日・令和6年3月26日 開会時間・午前・午後0時40分 閉会時間・午前・午後1時09分
出席者	河崎 周平 安藤 誠 後藤 徹 佐藤 健 南谷 清司 栗津 明 原 一郎 安井 智子 川柳 雅裕 野口 佳宏 後藤 國弘 堀 隆和 藤川 貴雄 豊島 保夫 南谷 佳寛 花村 隆 山田 紘治 近藤 伸二	
欠席者		
オブザーバー		
傍聴者		
説明のために 出席した者	堀議会事務局長 藤井議会総務課長 大下議会総務課課長補佐 中村議会総務課主任	
協議事項	○ 委員会協議事項について	

【開会=午後0時40分】

藤川委員長

時間になりましたので、ただいまから議員定数・報酬等検討特別委員会を開会いたします。

本日の資料は、タブレット端末に格納いたしましたとおりであります。本日の協議事項は、「委員会協議事項について」であります。

前回の協議におきまして、委員から発言がありました当市議会における議員定数、議員報酬、政務活動費の推移について、資料により全議員で共有いたしたいと思っております。

資料につきましては、議員定数、議員報酬、政務活動費の順で当市議会の推移を表にまとめ、参考に他市議会の現状について列記してあります。

今回の会議では、全員でこの基礎情報を共有するとともに、皆さんから現時点での考えや進め方についてお聞かせいただけたらと思っております。本日結論を出すというわけではありませんので、率直に現時点でのご意見等をお聞かせいただけたらと思っております。

順番にご意見を伺ってもよろしいでしょうか。本来であれば、先輩議員からというところではありますが、若い意見をということでもありますので、河崎議員から、1番から順番に。では率直にご意見をお聞かせいただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

河崎委員

はい、ありがとうございます。意見ですか、今回の資料の話ですか。

藤川委員長

資料は今お配りしたのですぐにご意見をというわけではありませんけれども、例えば今のお考えですとか今後の進め方等について率直にご意見をお聞かせいただけたらと思っております。資料に基づいた意見でもいいし、そうでなくても構いません。率直にご意見をお聞かせください。

河崎委員

はい、わかりました。私としては2名削減ということでお話させていただいておりまして、あわせて議員報酬であったりとか、政務活動費ですね、そちらの方の見直しもあわせしていければと考えております。

ちょっとこちらの資料ぱっと見させてもらってあって、一つもしあるのであればというところなんですけれども、例えば今回人口当たり何人という形で議員の方の参考資料出ていると思うんですけれども、例えばこれ平米数とかで

	<p>すね、どれぐらいの地理的な中で何人いらっしゃるとかっていうのがもしぱっと出るようなものがあるのであれば、いただけるとそれも参考になるのかなと思いますので、ちょっといただければなというところと、あわせて市民の方からこういった削減の意見とかっていうのがもし出ているのであれば、それももしあるのであれば資料としていただけるとありがたいなと思います。以上です。</p>
<p>安藤委員</p>	<p>はい。私も議員定数の削減2名で考えております。あと議員報酬や政務活動費についてはまたちょっともう少し皆さんと話し合いが必要かなという考えでおります。以上です。</p>
<p>後藤徹委員</p>	<p>とりあえず今回こういった資料をいただきましたんで、他市町との比較と、あと羽島市民の皆様はどのように考えているか、との意見等を総合的に判断して、検討していきたいなと思っております。以上です。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>はい。議員定数につきましては先般12月議会でもこちらからご提案させていただきましたとおり1名削減するべきであるという立場でございます。続いて議員報酬につきましては公約に掲げたとおり削減するべきという立場であります。続いて、政務活動費についてですが、これは検討が必要であると思います。以上です。</p>
<p>南谷清司委員</p>	<p>議員定数については2人削減すべきだろうと思っています。理由はですね、いろんな他所の市との比較とかいろいろあるんですけど、私達が一番尊重しなきゃいけないのは、市民の声、市民の意思ですので、羽島市の場合はそれはもう明確に示されていますので、市民の意思を尊重すべきだろうと思っています。</p> <p>あと報酬と政務活動費なんですが、今日の資料を見てちょっと驚いたんですが、平成23年に報酬を5%削減ということで、議決があったという。その理由がですね、議員年金制度廃止による公費負担が始まるという理由が書いてあるんですけど、いかにも不自然な理由だなと私自身は思っております。議員年金制度を廃止、これは国から決まってきたことなんですけれど、公費負担が始まったら議員報酬を減らすというのは、なぜなのかなという。議員の年金をもらえる方々がもらえ続けるためにですね、私達全く関係ないものの、議員報酬を減らしたというそういうふうに見</p>

み取れるんですが、ちょっと理解ができないなど。

それはそれで過去にあったことですからいいんですけど、今後先に向けて議員報酬なんですけれども、私自身はですね、人勧に準拠するとかですね、今はどんどん賃金が上がってきて、インフレで上がってきていますので、それに、自動的にスライドするような、法令上その仕組みを入れ込むのは非常に難しいと思うんですが、付帯決議でも何でもいいので、そうやってきちんと見直すと、そういう一文を入れてですね、世の中の賃金の上昇にスライドさせると、もちろん減ったときには減らすということなんですけれども、そういう仕組みを取り入れた方がいいんじゃないかなと思います。

あと政務活動費なんですけど、私自身は議員個人に本来支給すべきものだろうと思っているんですが、そうしますとなかなか事務手続きがややこしいですし、適切不適切どうのこうのとかですね、ありますので、それも含んで、議員報酬にしてもいいのかなということにはちょっと思ったりもしています。以上です。

粟津委員

先ほどの南谷委員とダブるところがございますが、これを見ると平成8年から、いわゆる10%合計すると下がってることなのかなこれ。あれなんか東日本のとき下げたというのはこれいつのことやな。東日本のときに下げて下げたというのがそのままなのはこの平成8年のことかな。ここには載ってないのかこれ。下げっぱなしじゃないのか。下げっぱなしなんだろ。

ほんでまた平成23年の公費負担いうて、この議員年金というのは、年金制度というのは半分は市の方の公費が払っとるんやで、また下げとるというのは議員の先生が何も、ちょっと認識不足やないかなと思いますけども。もう半分は公費が払ったんやで、それだけでもなくなったらもう、公費は非常に助かっておるということやで、かなりの金額やと思うんやけども。

そういうことも含めて議員の人らは、市3役ともに市長提案はもうもとに戻ってまっとるんやし議員だけ下がるとということやで、そういう点では議員の先生方はちょっと人がよすぎるんじゃないかと私は思っています。

定数につきましてはこの3月に決まったばかりでございますのでもう少し慎重に考えるべきだと。先送りして考えるべきだと、私は思っております。以上です。

原委員	<p>改正まで3年ありますので、定数削減また議員報酬、政務活動費におきましては、一つ一つ丁寧にしっかり検討していく必要があると考えております。</p>
安井副委員長	<p>定数削減においては2人削減っていうところで思っております。期限がまだ3年とおっしゃってますけれども、なるべく早くに決めて、そういった定数が変わることによっていろいろな事柄も変わってくるのかなというふうに思っていますので、ゆとりを持って決めていってほしいなと思っております。</p> <p>議員報酬については、年金制度がなくなりましたので若い方が入ってきてくださるときに、本当に辞めたときに年金がないっていう、国民年金だけなので、そういったものも含めて少しアップしてあげてほしいなというふうには思っております。</p> <p>政務活動費におきましては活動費が出るのであれば、もうちょっと増やしていただければもっと活動ができるのかなというふうには思っております。以上です。</p>
川柳委員	<p>私は自分が初めて立候補したときには、議会に、市民の多様な意見を反映したいという意見を持って立候補したつもりでございます。それで様々な議員がいて、議員の持つ能力やいろんなことがあって、社会経験もいろいろ違って、あとは女性もいたり若い人がいたり、いろんな、本当にあの市民の中から様々な意見を持った人が議員になるべきかなというふうに私は思っているので、そういう多様性を求める中では、この議員を削減するというのは逆に、時代に逆行してるようなふうだと思いますので、私は現状維持または2人増やすっていうことを、望む次第です。</p> <p>議員報酬については私はちょっと高すぎるかなと思ってるので、議員報酬削減の根拠については、まだこれから時間をかけて慎重に考えていきたいというふうに思っています。以上です。</p>
野口委員	<p>2削減で、報酬は増。政務活動費も増。どれだけって難しいね。でも戻ってないんですよ東日本のやつって。戻ったんでしたっけ。</p>
藤川委員長	<p>この資料を見ますと、23年3月10日に発議されてるので、東日本の前日、3月11日の前日に、何か発議されてるという資料ですんで。この資料は東日本大震災とは関連が</p>

ない報酬減だと思えます。

野口委員

金額はともかく上げるっていうていでね。

後藤國弘委員

私も議員定数削減2名ということで賛成の立場からですが、これ比較ずっとしていきますと、例えば議員報酬はそこそこかなとは思いますが、せめてもう少し上がると、世の中の景気動向を見ながらですが、上がっていくべきであると思っておりますし、あと政務活動費については大垣が19年に廃止とか海津は当初からないとか、これないところはどのようにしているかという、この実態も少し知りたいなという気もしますが。政務活動費については、極端に羽島市は低いのでこれは必ず上げなければいけないかなと、そういうふうに思っています。以上です。

堀委員

はい。前、提案しましたように、1名減というこれを2人で提案して科学的根拠に基づいた数字ですのでそれでいきたいという思いをしております。

それから、政務活動費ですが、これ見ても羽島市ね、極端に低いから。だから我々議員活動、やはり議会だよりとか、そういうのを出す、もっともっと市民にPRしたいなという思いをしております。そのためには、今の2倍か3倍とかね、それぐらいの、やっぱり議会だより等を発行できる、それが議員としての大切な要素だということを思っております。

それから報酬につきましては、今、羽島市はちょっと高いというようなこともありますが、これから一般社会でも、会社なんかでもどんどん報酬が上がってきております。そして、やはり報酬というかね、物価高、そしていろいろなことがありますので、やはり報酬をね、という点では、そのままにしておくならしておく、また、スライド制であげるなら上げる、そういうことをやっていくということで、きちっと我々が議員としての活動ができるような体制に持って行ってほしいなということを思っています。以上です。

豊島委員

議員の定数につきましては、以前も、議会改革の方でここ2年ほどですか。いろいろ調べられて、そういう中からも、あの今日もまた資料、出していただいておりますけど、傾向としては、私は、多様な人材とか、これからの羽島市の代表の確保ということからも、現状で。

これもあの市民の意見ということですが関連しますけど、そういう市民の意見もありますが一方ですね、報酬についても、そういうことを全市民というか、有権者に、問えば低くいうか、もっと下げよと、いう意見が私は出てくると思っております。それで、そういうのを必ずしも、どこを意見というかですね、それであの報酬については、上げていくというか物価とかいうのは、これは人事院勧告の関係から言っても必ずスライドしてきておりますので、全然上がらなかったときは、議員報酬も、全国的にも、公務員等と一緒に、同じでした。それで今は毎年おそらく今年からも勧告がまた出てくると思います。現状の金額は、これも言葉ですが、市民の方の意見を聞いたりということになっていくと思います。

最後の政務活動費ですけど、政務活動費についても本当に現在の予算からいっても、羽島市いただいておりますけど、こちらは本当の活動ということから、実績から、もう少し上げてもいいのではないかと考えておりますが、三つとも議論を進めていきたいと考えております。以上です。

南谷佳寛委員

議員定数は、2削減で考えております。

それから報酬なんですけど、やっぱりこれから若い子、子育てするような議員もたくさん入ってきていただきたいと思っておりますので、もう少し増額がいいと思っております。

また政務活動費に関しましては、本当に極端に羽島市は少ないんで、もっと増額が妥当かと思っております。

花村委員

まず議員定数についてですけども、私はこれ川柳委員と一緒に、現状または2人増員が必要であるというふうに思います。それは、やはり市民と役所を繋ぐパイプ役というか、皆さんの意見を吸い上げるためにも、議員はもっといた方がいいという考え方で、今は少な過ぎるというふうに思うからであります。この間海津市で、我々研修したときの先生も議員定数は下げるなというふうにおっしゃられておりましたが全く同感する次第です。

あと報酬と活動費ですけども、市民感覚からすると、なかなかこれは、触る、上げるのは難しいのではないかとこの気持ちでおります。以上です。

山田委員

今、花村さんおっしゃったように市民感覚で言ったら、定員は削減、報酬は削減、全部何でも安ければいいやろということになりますけれども、やはり我々議員といたしま

近藤委員

しては、私個人ではもうやっぱり今 18 人の定数は最低でも維持する。

それから報酬の関係なんですけども、これについては確かに物価云々という問題もありまして、上げれるときは上げればいいんですけども、ただ、若い方がこの政治の世界に入ってくるについては、僕はちょっと安いんじゃないかなと、そんなことを思います。

政務調査費についてはそれぞれ考え方がありますが、私としては現状維持でもいいかなと。そんなふうに思っております。以上です。

議員の定数についてはこの資料見させていただいてもですね、一番最初私どもが 25 名から 23, 21, 18 ということで選挙乗り切ってきて、現在に至るんですけども、多い方がいいとか、それは少ない方がいいとかで、途中で平成の大合併の話があったときはですね、岐阜市と合併するときには 1 万人に 1 人という割合になりますよということでその数字になりかけたときもありましたけども、現在私どもが個人的にですね、いろんな人と話し合っこの議員の数になると、やっぱり議員さんはたくさんおっいろいろな意見を聞かなきゃいかんで、減らすのは駄目やということが、たまたま僕の知り合いの人はほとんど減らしてはあかんという人が、現状維持っていうか、減らしたらあかんよっていう人が多いですね。評価していただいとると思いますけど。それで議員の数については現状維持でお願いしたいなと思ってます。

それから、報酬についてはですね、これもですね以前に、ちょっと私の記憶間違いだったら申し訳ないんですが、東北の震災があったときに 5% 下げてそれから職員の方が下げて、5% ということで、その 1 回目の 5% が特別職で市長とか副市長の場合は自分の任期中ですね、任期中の期限付きでやってたもんですから、確か我々議員はその期限付きでやってなかったもんですから、それがずっと今日まで来てしまったということがありますので、まずその条例改正をですね、私どもの任期中までにして、新しい人の任期からは 5% 上がるという方向で、したらどうかと思います。

それと、細かい話ですけど今回のこのお話とはちょっと違いますが、選挙公営につきましても、確か白木市長のときだったと思いますが、山口市の方で選挙公営の不正がありましてそのときに、たまたま白木市長がですね、インタビューに答えて、そういう不正があったから、選挙公営ち

よっと下げますよってというような話をされて、その話マスコミに載ってしまったという感じでちょっと羽島市はですね下がっておるはずです少し。それで選挙公営につきましても、ポスターとかそれから車とかそれぞれの経費が上がってますので、議会改革の中で取り上げていただけるかどうか分かりませんが、選挙公営部分についても、4年に1回のことですが、少し見直しをしていただきたいと思います。

それから、政務活動費については、大垣なんかはゼロということで、よくやられておるなと思いますけども、本来、報酬の中で、活動もするべきだという人もありますし、また政務活動費で有効に利用した方がいいんじゃないかということとされる。ただ、政務活動費について我々も市民の方にですね詳しくあんまり話してないもんですから、市民の方が政務活動費そのものに対しての考えとか、お金をもらってるってことは思わずに、たまたまその大きな市でですね、政務活動費を不正に使ってることマスコミでやられるとですね、いや羽島市も月何十万もらってますかということ、いやいや、うちの方は年間8万ですよということびっくりされますけども、この関係もですね、やはり政務活動費、新聞折り込みも一つの手でありますけどやっぱり我々の自分自身の研修とかそれから視察、常任委員会の視察以外の視察をですね、やはり8万円ではやはり少ないと思いますのでぜひともこちらの方ですね増額の方で。

ただこれ増額すると、すぐにあのマスコミがいろいろと変なネタ探ししてくると思いますけども、思い切ってあげられたらいいかなと思います。

それから議員の年金については、私どもはたまたまこの中でおそらく私だけだと思いますが、議員の年金の対象者です。それでやはり、若い方がお見えになりますので、国民年金だけじゃ駄目ですので、やはり議員年金にかわるもの、厚生年金になるのか、どういうものなのかちょっと具体的にはすぐお話しはできませんけども、ぜひ年金制度の復活をですね、国にも要望し、私も議長のとときに要望しましたけども、どういう年金かわかりませんが、若い人でもですね、老後の安定というか、これからの安定できるようにですね、生活保障してあげるべきだと思いますので、年金の関係もぜひ検討していただきたいと思っております。

先ほどの議員の報酬についても、戻すということと、それから私どもも30年近くやってますけども、民間のです

ね、オーナーといいますか事業所やってる方にあなた議員になったらどうかっていうことを言われますと、いや、そんな安い給料で僕らやりませんよということがほとんどです。それは我々はサラリーマンではありませんし職員ではありませんので、やはり市長の提案されたもの、行政に対してチェックするというのが大事な仕事であり、特別職でありますので、民間のオーナーの方が安いですねという意識で持っておられて我々はそんなもんには安くて議員にはなりませんよってはっきり何人か言われてますので、ある程度民間のオーナーの方がですね、納得するような、それだけの報酬をもらってですね、それから市長の提案されたこと、また行政のやっておることにですね、しっかりとチェックできるようなですね、組織にさせていただきたいと思っておりますので、報酬の関係もですね、上げる方で頑張ってもらいたいと思っております。以上です。

藤川委員長

はい、皆様の率直なご意見をお聞かせいただきました。ありがとうございました。今日結論を出すというわけではないんですけど皆さんのご意見を踏まえまして、次回以降の協議に進めていけたらと考えますけれども、よろしいでしょうか。

(異議なし)

藤川委員長

はい、それではですね、そのように進めさせていただけたらと思っております。本日はこれにて散会いたしたいと思っております。ご苦労さまでした。

【閉会＝午後 1 時 09 分】